

地域社会と連携しながら継続して環境美化に取り組む全国の学校を表彰

「第17回 環境美化教育優良校等表彰事業」 小学校、中学校の活動で最優秀校4校ほか決定

【最優秀校】

文部科学大臣賞	東京都	杉並区立杉並 ^{すぎなみだい} 第八小学校
農林水産大臣賞	岡山県	山陽女子 ^{さんようじょし} 中学校 ^{ちれきぶ} 地歴部
環境大臣賞	石川県	七尾市立小丸山 ^{こまるやま} 小学校
協会会長賞	広島県	福山市立中 ^{ちゅうじょう} 条小学校

清涼飲料・ビールなど飲料業界6団体で構成する、公益社団法人食品容器環境美化協会（略称：食環協、会長：東 隆）では、今年度の「環境美化教育優良校等表彰事業」において、都道府県より推薦を受けた全国の小・中学校の中から最優秀校4校、優秀校6校、優良校30校を選定し、表彰いたします。

この表彰事業は、地域社会と連携しながら環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

最優秀校4校は、都道府県の推薦によって選出された中から審査会による厳正な審査を経て、「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」を決定いたしました。なお、昨年度と同様、環境美化活動をより包括的かつ総合的にとらえるため、小学校部門、中学校部門を区分せず表彰することといたしました。

受賞校の取り組みの中でも顕著なのが、岡山県山陽女子中学校地歴部です。最近話題となっている「海底ごみ」問題について、瀬戸内海において漁業者と協力して、海底ごみの回収をするとともに、こうした問題の地域への啓発活動を行い、毎年国際会議へも参加し、広く情報発信するなど、先駆的に取り組んでいます。他の最優秀校3校も、地域の環境問題解決のため、学校の中で計画を立て、地域に働きかけを行い、取り組みを実践し、しかもその活動を次世代に引き継いでいくことが、高く評価され今回の受賞に至りました。

本年度の表彰式は2017年1月27日（金）、浅草の下町界限や東京スカイツリーを一望する「浅草ビューホテル」（東京都台東区）にて、最優秀校4校を招いて開催いたします。

式典では、各受賞校の美化活動の様子をインタビュー映像やスライドで紹介しながら、生き生きと取り組む生徒・児童の前向きな声や教師の思い、サポートする地域住民の熱意などをお伝えしてまいります。



公益社団法人食品容器環境美化協会は、1973年に設立されて以来43年の間、飲料容器の散乱防止とリサイクル推進の啓発を中心とした環境美化の推進に努めています。日本の環境が美しくなることを実現するため「環境教育の支援」、「ポイ捨て防止の啓発」、ならびに「アダプト・プログラムの推進」などの事業を展開しています。

当協会の「環境美化教育優良校等への表彰」は、「環境美化教育の助長」及び「地域の環境美化の啓発」を目的に2000年度に発足し、今回が17回目となります。

その間、地域の環境美化やリサイクル推進を積極的に取り組む小中学校を表彰し、当該学校の児童生徒の活動を励ますとともに、広くその活動を紹介してきました。同時に、この表彰を通じ、環境美化教育の全国における活性化にも寄与してまいりました。

環境教育への取り組みが年々重要になる中で、本年も全国の都道府県から、環境美化教育に独創的かつ熱心に取り組む、校内だけでなく地域とともに環境美化に大きく貢献した活動を実践している優秀な小・中学校が多数推薦されました。これら各校の活動内容を、審査委員が厳正に審査した結果、このたび4校が最優秀校、6校が優秀校、30校が優良校として選定され、表彰の運びとなったものです。

■本年度の各都道府県からの推薦状況

第17回は、環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動を継続している小学校・中学校から都道府県が1校を推薦する方式

	合計
推薦があった都道府県数	40
推薦校数	40

■本年度審査結果

審査委員会による審査の結果、受賞校を以下の通り決定

	受賞校数
最優秀校	4
優秀校	6
優良校	30

最優秀校に選ばれた4校の活動概要およびその他各賞の受賞校は以下の通りです。

■最優秀校の活動概要（詳細は P6 以降参照）

散乱防止活動またはリサイクル推進活動	
文部科学大臣賞	<p>東京都 ^{すぎなみだいほち} 杉並区立杉並第八小学校</p> <p>地域で開催される「東京高円寺阿波おどり」で課題となっているポイ捨てごみの散乱防止に取り組む。8月の開催日に向けて、6年生児童は、東京高円寺阿波おどり振興協会や商店街、行政、住民の協力を得て、2か月以上前からさまざまな活動を展開。最初に、保護者をはじめとする住民にごみ問題の意識調査を実施する。その結果をもとに、行事の主催団体へプレゼンテーションを行う。さらには、祭りの翌日にあふれるごみの臨時回収を杉並区長に直接依頼したり、商店街を回りごみ削減の啓発チラシを配布したりするなど、課題解決に向けて正面から取り組む。開催後は、ゴミに関する状況調査を行い、区内中学校の文化祭などで広く発表し、最後は5年生に活動を引き継ぐ。そうした児童の積極的な活動は徐々に認知され、大人のモラル向上にもつながり年々ごみは減少。ごみの問題提起を機に、住民との関わりが深まり、児童は地域への愛着心が高まっている。</p>
農林水産大臣賞	<p>岡山県 ^{さんようじょし} 山陽女子中学校 ^{ちれきぶ} 地歴部</p> <p>瀬戸内海の海底は、空き缶・ペットボトルなどの資源ごみや、不法投棄された産業廃棄物が堆積しているにもかかわらず、回収者が不在で目視不可のために認知度も低い。そんな深刻な現状に着目し、「海底ごみ」の回収と啓発に先駆的に取り組む。具体的には、浅口市寄島町の漁業者の協力を得て、年に6回ほど漁船で瀬戸内海沖へ向かい、底曳き網を利用してながらごみを回収する。この海上活動において、海底ごみは、川を通じて生活ごみが瀬戸内海へ流入したものであることが明確となったため、瀬戸内海を囲む全地域にごみ抑制の啓発活動を年5回ほど実施。単に情報を一方的に発信するのではなく、海底ごみを展示するなど可視化、認知度の地域差解消につなげる工夫を凝らし、沿岸域や内陸部の地域へ出向いて訴えているのが最大の特徴だ。環境問題に関する国際会議には毎年参加、海底ごみ問題の原因・現状、解決に向けた取り組みを世界に発信し続ける。</p>
環境大臣賞	<p>石川県 ^{こまるやま} 七尾市立小丸山小学校</p> <p>校区を流れる御祓（みそぎ）川の下流は、十数年前まで県下のドブ川と呼ばれていたが、地域住民たちの努力により改善。児童はもっと美しい川にしようと市の協力を得て、毎年上流から下流にかけて水質や水生生物の定点観測をしている。環境保全意識は自然と高まり、6年生が「御祓川クリーン大作戦」を企画。川の現状報告とともに清掃協力を募る新聞を手づくりし、町会長を通じて校区全世帯に配布する。また、公民館が主催する川清掃には児童も積極的に参加するなど、環境美化活動をきっかけに住民との交流が育まれ、参加者は年々増加、地域の意識が高まっている。高校生とのごみ拾い活動にも率先して取り組み、祭りでは川の状況を発表。こうした一連の活動を5年生に引き継ぎながら、自分たちの願いや思いを次に託している。学校へは住民からの応援メッセージが届き、児童の活動を後押ししようとする動きが加速。</p>
協会会長賞	<p>広島県 ^{ちゅうじょう} 福山市立中条小学校</p> <p>“誰かじゃなくてぼくがする わたしがする”を合言葉に、地域団体や市と連携しながらさまざまな美化活動に励む。近くを流れる堂々川では、堂々川ホテル同好会や市環境啓発課の指導のもと、ホテルの復活を願って水質調査を実施、採取した生き物から川の汚れ具合を毎年チェックしている。調査場所へ行く道中も、車道などにポイ捨てされた空き缶やペットボトルを回収する行動がすっかり定着化。また、川の土手の不法投棄・イノシシ対策として、地域住民が行っている彼岸花の球根を植樹する活動や、古道の整備、神辺商工会青年部主催の地域清掃活動「530（ごみゼロ）運動」にも児童が進んで参加するなど、年々自然や資源を大切にしたいという環境意識が高まっている。児童の活動をサポートする地域の協力体制も万全で、下校時に道路や溝のポイ捨てごみを回収する一斉清掃下校では、住民たちが児童に声をかけ温かく見守る支援や協力を惜しまない。</p>

■その他受賞校：

<優秀校> 協会会長賞 6校

福島県	大熊町立大熊中学校	茨城県	日立市立助川中学校
福井県	勝山市立勝山中部中学校	徳島県	藍住町立藍住北小学校
長崎県	壱岐市立八幡小学校	鹿児島県	阿久根市立西目小学校

<優良校> 協会会長賞 30校

青森県	青森市立奥内小学校	岩手県	一戸町立小鳥谷小学校
宮城県	涌谷町立籠岳白山小学校	山形県	寒河江市立陵西中学校
栃木県	芳賀町立芳賀東小学校	群馬県	前橋市立芳賀中学校
埼玉県	戸田市立喜沢小学校	千葉県	市原市立辰巳台西小学校
神奈川県	小田原市立鴨宮中学校	新潟県	南魚沼市立第二上田小学校
富山県	黒部市立生地小学校	山梨県	甲州市立塩山中学校
長野県	長野市立山王小学校	岐阜県	北方町立北方中学校
静岡県	牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校		
愛知県	名古屋市立桜丘中学校	京都府	福知山市立夜久野中学校
大阪府	大阪市立大淀中学校	兵庫県	丹波市立青垣中学校
和歌山県	橋本市立高野口小学校	山口県	周南市立岐山小学校
香川県	三豊市立笠田小学校	愛媛県	今治市立近見中学校
高知県	香美市立大柘中学校	福岡県	北九州市立曾根東小学校
佐賀県	神崎市立脊振中学校	熊本県	熊本市立画函小学校
大分県	別府市立春木川小学校	宮崎県	日向市立富高小学校
沖縄県	石垣市立名蔵小中学校		

■表彰授与

- 最優秀校4校の表彰式は、下記にて行います。

2017年1月27日（金）16:00～17:40（受付 15:00～）

浅草ビューホテル 3階「祥雲の間」

東京都台東区西浅草3-17-1 電話03-3847-1111

<http://www.viewhotels.co.jp/asakusa/> *つくばエクスプレス「浅草駅」直結

懇談会 18:00～19:30（予定）25階「大輪の間」

- 優秀校ならびに優良校については、後日、各都道府県において表彰状等を伝達します。

環境美化教育優良校等表彰事業の概要

- 主催：公益社団法人食品容器環境美化協会
- 後援：文部科学省、農林水産省、環境省
- 表彰の対象：環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校、およびこれに準ずる小中学生の団体

- 表彰：

最優秀校	文部科学大臣賞	1校
最優秀校	農林水産大臣賞	1校
最優秀校	環境大臣賞	1校
最優秀校	協会会長賞	1校
- ・賞状と副賞を贈呈
 - ・上記の他、「優秀校」、「優良校」に対し、協会会長賞と副賞を贈呈

■応募・推薦・審査：

【最優秀校・優秀校・優良校】

都道府県の環境整備主管部局、または教育主管部局が推薦する小中学校を審査委員会で審査し、表彰する

■審査委員：

- | | | |
|---------|--------|---|
| [審査委員長] | 小澤 紀美子 | 東京学芸大学名誉教授・東海大学大学院客員教授 |
| [審査委員] | 柏木 順二 | 公益財団法人 日本環境協会 専務理事 |
| | 國分 重隆 | 全国小中学校環境教育研究会 顧問
東京都教職員研修センター研修部教育開発課 教授 |
| | 小島 あずさ | 一般社団法人 JEAN 事務局長・副代表理事 |
| | 小山 博敬 | 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会
代表理事専務 |
| | 柴田 昌志 | 公益社団法人食品容器環境美化協会 企画委員
カゴメ株式会社 東京支社 経営企画本部 品質保証部
環境システムグループ 課長 |
| | 瀧花 巧一 | 公益社団法人食品容器環境美化協会 企画委員
一般社団法人 全国清涼飲料工業会 環境部長 (敬称略) |

公益社団法人食品容器環境美化協会の概要

1973年（昭和48年） 任意団体「食品容器環境美化協議会」として発足

1982年（昭和57年） 社団法人「食品容器環境美化協会」（農林水産大臣設立認可）

設立以来43年間、飲料容器の散乱防止など、国土の環境美化の推進に努め、公共の福祉の増進に資するため、各種啓発活動を行っている公益法人です。

2011年（平成23年） 公益社団法人「食品容器環境美化協会」（内閣府認可）

公益法人制度の改革に伴い、内閣総理大臣から公益社団法人の認定を受け、

「公益社団法人食品容器環境美化協会」として再発足しました。

- 主な活動：
- 新しいまち美化手法「アダプト・プログラム」の普及と推進活動
 - 小・中学校でのパソコン学習支援サイト「まち美化キッズ」の運営、
教育者向け「環境美化 学習のガイド」の制作提供等の次世代への
環境教育支援 <http://www.kankyobika.or.jp/kids/index.html>
 - 市民団体等への環境美化活動の支援
 - 「ポイ捨て防止」啓発活動
 - 散乱ごみ対策の調査・研究 等

構成団体：一般社団法人 全国清涼飲料工業会 <http://j-sda.or.jp/>

清涼飲料メーカーなど45会員85社、組合会員21会員180社、賛助会員112社からなる社団法人

一般社団法人 全国トマト工業会 <http://www.japan-tomato.or.jp/>

トマト加工製品メーカーなど35社からなる社団法人

一般社団法人 日本果汁協会 <http://www.kaju-kyo.ecnet.jp/>

果実飲料メーカーなど121会員からなる社団法人

日本コーヒー飲料協会

コーヒー飲料メーカーなど19社からなる任意団体

コカ・コーラ協会

日本コカ・コーラ社と全国のコカ・コーラボトリング社からなる任意団体

ビール酒造組合 <http://www.brewers.or.jp/>

アサヒ、キリン、サッポロ、サントリー、オリオンのビール5社による特別認可法人

■本件に関するお問い合わせ先■

公益社団法人食品容器環境美化協会（食環協）

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K.Sビル6階

TEL. 03-5439-5121 FAX. 03-5476-2883

ホームページ <http://www.kankyobika.or.jp/>